

皮膚科

1 研修目標

(1) 一般目標(GIO)

日常診療で必要な皮膚科的疾患の診断および処置を的確に施行できることを目的として、基本的な皮膚所見の記載, 皮膚科的診断法, 治療法などを修得する。さらに、診断学として皮膚病理学, 手術方法および術後管理や合併症の対策など、幅広い知識を修得する。

(2) 行動目標(SBOs)

- ① 入院患者の受持医として、皮膚科学における基本的な診察手技, 検査の手順, 治療法を習得する。各種皮膚病の病態を把握する。
- ② 受け持ち患者の手術に入り、止血や縫合などの基本的な手術技術, 術後管理や創傷処置などを体得する。
- ③ 患者および家族に対する接遇の基本を身につけさせる。
- ④ チーム医療において、他科の医師やパラメディカルと強調した医療行為が行えるようになる。
- ⑤ 医療行為に関する適切な診療簿を作成することができる。

2 研修方略

(1) 研修期間

1～3か月の研修を行う。

(2) 方法

- ⑥ 入院患者の受持医として、指導医の助言や助力を得ながら、診察, 治療を行いカルテに記載する。
- ⑦ 指導医が患者やその家族に行う説明に参加し、インフォームド・コンセントやコミュニケーションの方法を修得する。
- ⑧ 指導医が患者に行う皮膚科処置に参加する。
- ⑨ 入院手術患者は全例手洗いして参加する。指導医の指導の下、止血や縫合などの基本的な手術技術を習得する。
- ⑩ 外来患者は指導医の診察に参加し、皮膚所見の記載方法, 治療法や病気の説明などを聞き外来診療を体得する。
- ⑪ 病棟回診や症例検討会(週1回)に参加し、症例の提示や報告をする。
- ⑫ 横浜北部皮膚科臨床懇話会(紹介患者の報告と講演を行う病診連携を目的とした研究会(年2回))に参加し、症例の提示や報告をする。

(3) 皮膚科週間予定

	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
外来診療	○		○		○		○		○	
特殊外来検査 病棟往診		○		○	○			○		○
病棟処置	○	○	○	○		回診	○	○	○	○
中央手術		○								○
外来手術		○		○				○		○
組織カンファ レンス						○				

3 研修責任者および指導医

研修責任者：部 長 佐藤 勘治（平成9年卒業）皮膚科専門医

指導医：部 長 佐藤 勘治（平成9年卒業）皮膚科専門医

4 評価

- (1) 研修医は別掲の卒後臨床研修評価項目に従って研修を行い、カルテや手術記録を正しく記載する。
- (2) 指導医および看護師を含むチーム医療のスタッフが、研修医の診療および研修態度を評価する。
- (3) 卒後臨床研修評価項目の達成状況を研修期間終了時に、研修医自身と指導医の意見を集約して研修責任者が評価する。
- (4) 研修責任者は上記評価結果を総合して、当科研修終了の判定を行う。

5 行動目標

- (1) 診断に必要な皮膚所見の表現と記載が正確にできる。
- (2) 皮膚の構造、機能、生理作用を組織学的な観念も含め理解できる。
- (3) 患者および家族より正しい病歴を聴取し、詳細に記録にまとめることができる。
- (4) 皮膚の臨床所見から最も的確な病理学的所見を得ると想定できる部位を生検できる。
- (5) 色素沈着に対するQスイッチルビーレーザーや腫瘍に対するCO2レーザーの違いや適応疾患がわかる。
- (6) 紫外線療法の適応疾患や器機の違いを知り、照射方法が理解できる。
- (7) 臨床症状に合わせて軟膏のランクや種類を選択して適切な外用療法を施行し、正し

い包帯の巻き方で密閉療法を施行できる。

(8) 入院患者の診察、処置を通して治療法の選択や退院日の決定ができる。

(9) 潰瘍、熱傷など不要な壊死組織のデブリードメントの時期を決定して行える。

(10) 腫瘍切除に際して、的確な切除範囲の決定と正しい縫合を行える。また、抜糸の時期も決定できる。

(11) 皮膚組織標本に対して、正確な病理所見の説明と臨床診断を加味した総合的な確定診断を行える。

6 学習方略

	行動目標	方法	場所	担当者
①	(1), (2), (3), (4), (9)	初診外来	皮膚科外来	初診担当医
②	(1), (2), (3), (8)	病棟カンファレンス	カンファレンス室	全員
③	(1), (3), (8), (9)	病棟回診	病室	全員
④	(3), (7), (8)	病棟処置	軟膏処置室	病棟当番
⑤	(5), (6)	見学	外来レーザー室, PUVA 室	主治医
⑥	(2), (11)	組織カンファレンス	皮膚科外来	全員
⑦	(10)	手術	中央手術室	部長